オールジーク　（すべての勝利）

花魔咲霊

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

この物語はＰＳＯ２　Ｂ―３０１（茶番劇）のメンバーの許可得て書かせていただきますこちら見るあたり注意があります

1、本家ワンピース様のアレンジです

2、名前、本名に「ステラ」がありますが某ゲームの「ステラ」と関係ありません

3、ＰＳＯ２キャラ出てくるのでタグにＰＳＯ２と書かせていただきます

4、私の小説から何人か出す予定です

それでも良いならどうぞ

目次

ステラの過去 ―― 1
コート家とステラ家 ―― 5
世界王の生まれ地 ―― 10
国と上の者 ―― 14
船と戦い ―― 18
暗闇と政府 ―― 22
暗闇と仲間 ―― 27
機械と船 ―― 31
登場人物（現状） ―― 35
一人の毒と2人の目的 ―― 40
小さな島 ―― 45
海と大きな穴 ―― 49

ステラの過去

とある世界に謎の家計がいた。
その名は「ステラ」
「ステラ」は家計の中で勇逸生き残りがいる
家計には叔父が初代「ステラ」の管理主であった。
しかしその祖父、祖母が亡くなってた
２代目「ステラ」の管理主がその「ステラ」の母である
２代目はのちの世界王「ロートガス」の仲間、航海士担当となり世界を見に行った。
そこに１人、その父と出会い、その海賊団解散後４人の子がいるが・・・一人だけ隠し子がいる
その隠し子は同じ「ステラ」家の１人であり顔にその〝証〟を入れ「青警」に隠し処刑する前に航海士、遠距離、そして近距離を学んだ。
そして当時１５歳
ステラの末裔扱いしそれが広がることも時間の問題であった
???

？A　「こちらにステラの末裔がいらっしっゃるみたいですけど、どういたしましょうか？」
チャクラ　「捕獲するしかないねぇ～」
???　ステラ（3代目）の部屋
（カタカタ・・・）
？A　「姫様。」
「どうしたの？」
？A　「青警の中将いらっしゃいますが・・・」
「え？・・・何で!?」
？A　「分かりません、では失礼いたしました。」
（コンコン）
「??」
チャクラ　「失礼するよぉ～」
「え・・・誰？」
私は仮面をいつものように付けていた。その仮面は〝証〟を隠すためにいつものように付け、家計を隠していた。しかし・・・
チャクラ　「すまないねぇ～（スッ）」

その仮面は・・・チャクラの手によって取った・・・いや〝取られてしまった〟

「・・・あ」

その〝証〟は見られては行けなかったもの。〝証〟は1人によってみられてしまった

チャクラ「クアッド?ステラの末裔見つけたよぉ～、どうしたらいいのかなぁ～?(無線)」

クアッド(無線)「自由にしていいよ」

私は逃げた、青警の中将に見つかったけど逃げる。

しばらく逃げた後

チャクラ「見つけたよぉ～」

「!?」

チャクラ「君に罪はないけどすまないねぇ～」(カチャリ)

私は捕獲・・・いや捕まってしまった

チャクラ「クヴァドぉ～、捕まえてきたよぉ～」

クアッド「そうだね、アイスウォール(壁を張る)」

壁を張られ、2人と私に分かれた

クアッド「お嬢さん、逃げなさい。」

言われた通り私は逃げた。一生懸命逃げた

港

「はぁ・・・はぁ・・・くそっ・・・何で・・・こうなるんだよ・・・」

クアッド　「お嬢さん」

「何で捕まえないの？確かに私はステラの末裔だよ」

クアッド　「それは僕の正義次第さ」

私は船に乗り新たな世界に身を出したそしてその街にもう1人、ステラであったその名前は「ステラ・S・グラム」であった・・・

私は・・・「ステラ・S・タイム」である

続く

コート家とステラ家

ここは「ビギンズタウン」
前の住んでた家の次の「ステラ家」の家である
そこに1人フラフラしつつ歩いていた
「お腹・・・へったぁー・・・」
彼の名はコート・E・ジーク。彼の夢は「世界王」になる事
「大丈夫ですか!?」
一人はジークに駆け寄ってきた
ジークは1人が何かに見えたようで・・・
ジーク「肉ー!!」
「うわぁーー!!」
ジークは1人を追いかけ、1人は逃げる
???
?A「ゼロ様、あちらに何かお見えになってます」
ゼロと言われた者は

ゼロ　「事情を・・・ってえ?」
ジーク　「なんだこれ肉じゃない」
「聞いただけなのに・・・」
?B　「貴方様は?」
ジーク　「そうだ!飯!!どこだー!!!」
ゼロ　「・・・(汗)」
?A　「ならこちらのごはんはいかがでしょうか?、われわれこちらのごはん美味しいですよ?」
?B　「でも・・・姫様に・・・」
?A　「従者がいらっしゃるので・・・」
?C　「こっちだキュ!」
ジークはその者について行った
???　ステラ（3代目）の部屋
「・・・姫様。」
タイム　「どうした?グラム」
グラム　「平和ですね」
タイム　「平和だといいけどね・・・」

「・・・ュ！」

グラム　「失礼」

???　ロビー

グラム　「どうしました？」

？C　「お客キュ！」

グラム　「姫様およびしますのであちらに」

???　ステラ（3代目）の部屋

グラム　「姫様」

タイム　「どうした？グラム」

グラム　「お客様です」

タイム　「了解」

???　食堂

タイム　「貴方がグラムが言ってた客？」

？A　「はい、姫様」

タイム　「一体何が・・・m」

（ぐぅ～・・・）

タイム　「・・・あー・・・そういう事ね・・・厨房借りるよ」

ゼロ　「わたくしが・・・」
タイム　「大丈夫だから・・・」
ゼロ・・「エクスト・F・ゼロ」ある。とある王国の王今は聖騎士である。そして「ステラ家」の騎士である
タイム　「(コトッ) 出来たよ」
ジークはその料理を食べ始める
ジーク　「美味いなこれ誰が作ったんだ?」
タイム　「私だけど・・・」
ジーク　「仲間になんないか?そして美味い飯作ってくれよ!!」
タイム　「・・・良いよ」
グラム　「俺も行こうかな」

外

タイム　「自己紹介しようか、私はステラ・S・タイムだよ」
グラム　「俺はステラ・S・グラム」
ジーク　「・・・ん? 〝ステラ〟?」
タイム　「そうだけど・・・?貴方は?」
ジーク　「コート・E・ジークだよ」

タイム　「・・・なんか・・・会ったことがあるような感じがするね」

一方　???

「・・・僕の弟君と妹君・・・大丈夫かな」

「(コンコン) いるか?」

「いるさ、〝アドラ〟」

アドラ　「そろそろ着くよ、降りる準備した方が良いよ

〝スター・S・ルーサー〟」

ルーサー　「了解だよ、君が弟君と妹君が相手するなら許さないさ」

続く

世界王の生まれ地

この世界には3つの力がある
転生を使える 「モデン」
属性の力を使う 「ビュート」
その他に分類する 「シャドウ」
その3つは「パラミシアン」と言われている
私、ジークは「モデン」に分類されるが私はそれを隠し「シャドウ」にした

～コートロートガス～

この島はかつて世界王だった「ロートガス」の生まれ故郷であり、処刑された所である

タイム 「なんかここ・・・」
彼女は少し落ち込む
ジーク 「どうした?」
タイム 「・・・亡き両親がいなくなる時に隠れててって言ってて・・・」
「いなくなったって事か」

タイム　「誰!?」
「自己紹介がまだだったね、ワシは〝コート・E・クロイル〟、ジークのおじいさんじゃ」
ジーク　「・・・」
タイム　「え・・・ジークの・・・おじいさん?」
彼女は驚いた、彼にお爺さんいたこと
クロイル　「ワシはここに処刑台があるんじゃが・・・見るか?」
タイム　「うん・・・」
3人は処刑台に移動する
クロイル　「ここじゃ」
タイム　「・・・ここが・・・ロートガス、私の両親が処刑された所・・・か」
クロイル　「両親処刑されてたのかのぉ・・・」
タイム　「・・・うん・・・」
彼女は少し落ち込む
ジーク　「両親処刑されたの?」
タイム　「うん・・・」
昔、ロートガスが仲間になった2代目ステラ家の家主
家主はビギンズタウンにいたまま過ごしていた

そこにロートガスがやってきた
ロートガス　「どこだー!!」
家主はその海賊団にバレずにいたが・・・
ロートガス　「お前、何でここにいるんだ?」
家主は・・・
２代目ステラ家主　「私は・・・隠れて暮らしてるの、だからあの子だけはさらわないでください・・・」
あの子、その子こそ3代目ステラの主　「ステラ・S・タイム」である
ロートガス　「んな訳あるか!、さらう訳じゃねぇただ誘うつもりだ!!」
２代目ステラ家主　「誘う?どこに行くの?」
ロートガス　「エンドに行くんだ」
２代目ステラ宿主　「エンド・・・私はこの海を見てみたいの」
ロートガス　「良いぞ、一緒に行こう」
２代目ステラ家主　「ありがとう・・・」
・・・
「敵だ!!」
クロイル　「なんじゃと!?」

ジーク　「下がって」
タイム　「私も戦う！」
クロイル　「ワシも取り締まろうかのぉ」
「そこにお嬢さんいるみたいだけど」
タイム　「な・・・!?」
クロイル　「お嬢ちゃんは下がってな」
タイム　「あ・・・うん」

バトル中

クロイル　「これでいいかのぉ」
タイム　「さすがジークのおじいさん」
クロイル　「お嬢さん」
タイム　「?」
クロイル　「ワシ、青警の中将じゃが・・・」
タイム　「!?に・・・逃げよう」
クロイル　「ジーク、お嬢さんの事よろしく頼む」
ジーク　「・・・分かったよ」

国と上の者

私は青警に狙われいた。
その訳は２代目、２代目は世界王の航海士であるため
私にも狙われていた
懸賞金は「５０００万ギラン」であった
〝ギラン〟それはここの世界の通貨である
ジーク　「次はどこに行けばいいんだ？」
ジークは地図を見ていた
タイム　「見させてくれないかしら？」
ジーク　「はい、これだよ」
タイム　「・・・次は文化の町スフィンテルランドだね」
ジーク　「向かおうかスフィンテル？ランドに」
　　文化の町　スフィンテルランド
タイム　「ここが・・・スフィンテルランド・・・すごい町ね・・・」
ジーク　「何か起こると・・・怖いね」

タイム　「そうね、ここについても聞かないとね」

スフィンテルランド　城内

タイム　「すいません・・・」

「お主たちは？」

タイム　「あ・・・すいません、わたくし3代目ステラのタイムです」

「すまないのぉ・・・わしはここの国王じゃ」

タイム　「此処について知りたいのですが・・・」

国王　「ここはスフィンテルランドお主たちは・・・」

ジーク　「間もない海賊・・・」

国王　「じゃあ〝五世覇〟も〝六戒〟も知らぬようじゃな」

ジーク　「五世覇？」

タイム　「六戒？」

国王　「五世覇５人の懸賞金の上の者を指すんじゃ、白虎の〝ヒズク〟、朱雀の〝レバード〟、青龍の〝アドラ〟、玄武の〝クタート〟、天狐の〝シエン〟その５人が五世覇じゃ次は六戒の事じゃな。」

ジーク　「五世覇はその５人が・・・」

国王　「それがとても強い５人なんじゃ。話がずれたな６戒の事じゃな。６戒はいわ

ば海賊キラーじゃなそして青警じゃが、数百の国が加盟している一大組織が入っておるんじゃ」

タイム　「うわぁ・・・百以上って・・・どんだけ入ってるの・・・（汗）」

一方　どこかのカフェ

ヒズク　「私達がこう集まって話すのは何年ぶりかしら・・・」

レバード　「何年ぶりでも良いじゃないか」

アドラ　「僕は1人育てる途中なのに・・・」

クタート　「あと1名来ておらぬな」

「待たせてしまったね」

レバード　「シエン！」

ヒズク　「そういえば新しい海賊団来たらしいわね」

レバード　「その海賊団は？」

シエン　「聞いてないの・・・未だこの2人が海賊団よそしてもう1人は元々懸賞金かかってる人よ」

アドラ　「もともとって・・・いくらなんだ??」

シエン　「５０００万ギランよ」

クタート　「５０００万ギラン何をしたんじゃ・・・」

シエン「私達に関係あるわね、ロートガスの部下であった2代目ステラの人よ」
ヒズク「2代目に仲間がいるとはね」
レバード「シエン、それ以外の情報無いの？」
シエン「ないわ」
続く

船と戦い

目的はみんなバラバラそれは私も決まっている
私の目的は亡き両親の願いだった・・・

宿　男性の部屋

ジーク　「・・・(そわそわ)」
グラム　「どうした?ジーク・・・そんなにそわそわして」
ジーク　「タイムの事だよ」
グラム　「姫様の事?」
ジーク　「いつも仮面付けてるからその下の顔気になってな」
グラム　「僕も気になってたんだよ、姫様の仮面の下の顔」
ジーク　「行こうかお風呂に」

一方　女性の部屋

タイム　「・・・?なんか寒気がする・・・気のせいかな・・・さて」
彼女は仮面を自ら外した。
仮面を外すとそこに刻まれてたのは「S」

「S」はステラ家の証の1つ、その「S」は色んな模様が付いている
しかし・・・その証は隠されている
3代目ステラ主のタイムは頬に「S」を刻まれている
初代ステラの主は右手の甲に「S」を刻み手袋で隠している
2代目は左足に「S」を刻み靴下を隠している
一方とある兄弟は違う、兄弟はとある剣に刻まれている
タイム　「なんか寒気するから部屋のお風呂に入ろうっと」

次の日　スフィンテルランド

「こうで・・・いいか?」
国王　「それは・・・良いのか?スレイト??」
スレイト　「良いから言ってるだろ?」
（バンッ）
ジーク　「来たぞー!!」
部下A　「スレイト様、どういたしましょうか?」
スレイト　「六戒の1人でも多分甘く見られてるかもしれない、とにかく試して見るしかないだろ?」
部下B　「じゃあ僕、そこのお嬢ちゃん倒そうかな?」

部下Ａ　「僕も倒したい!!」
部下Ｂ　「じゃあ２人で倒す?」
グラム　「姫様に手を出すな!!（バッ）」
部下Ａ　「じゃあ僕はこの人倒す、君はお嬢ちゃん頼むよ」
部下Ｂ　「はーい」
スレイト　「君は・・・何を目的なんだ?」
ジーク　「世界王になる事だよ」
スレイト　「なら海賊になる君を倒そう、それが六戒だから」
部下Ａ　「君を倒してから僕はお嬢ちゃんを倒すことを手伝おう」
グラム　「（スッ）じゃあ先に君を倒そう」
部下Ｂ　「大人しくしてて、君を傷付けるかもしれないよ?」
タイム　「・・・傷付けてもそれは〝導き〟ならそれに従おう、〝運命の道〟（フォーチュンロード）」

運命の道は残りの２人を貫いた、そしてモデン系である事を隠し〝シャドウ系〟である事を・・・

国王　「おかげで助かったわい・・・お主たち海賊じゃったな船着き場に１隻あるんじゃがそれをお主たちにあげよう、その名は「ジーク号」じゃ」

ジーク「ありがとな国王のおっちゃん!!」
国王「そして3代目ステラの主よ」
タイム「はい・・・」
国王「これをあげよう」
タイム「これは?」
国王「ログじゃ、あともう1つお主に警告じゃ」
タイム「?」
国王「次の町はおそらくクロトヘルじゃがセンチネルタウンに仮面収集してる者がいるそちらに気を付けてくれ」
タイム「分かったわ」

続く

暗闇と政府

私は色んな目的を見てきた、不可な目的を持ち散る者がいれば
可能な目的で行ったりする

ジーク号　中

ジーク「タイム、宝は?」
タイム「ここ」
ジーク「それともう1つ、君の目的は何?」
タイム「私は・・・この世界をもう1回みたいの」
私は昔地下にいて他の世界見に行ってない
グラム「次は・・・」
すると暗くなる
ジーク（声だけ）「え!?、みんなどこ!?!?」
グラム（声だけ）「ここだよ」
タイム（声だけ）「いよいよ暗闇の町　クロトヘル来たね」

クロトヘル

「ようこそ暗闇の町、クロトヘルへ」
ジーク（声だけ）「明るい所ってある？」
「こちらです、暗いので話しながら移動しますね」
グラム（声だけ）「ここはどんな町なんですか？」
「こちらは暗い町なのですがここに青警の場所もございます」
私は黙った。否言ったら言ったで私自身アウトだから
タイム（声だけ）「ここのログは何日かかるの？」
私は自分が指名手配である事を隠しそう言った
「ログ・・・ですか、こちらは４日ですね」
タイム（声だけ）「４日ですか・・・」

部屋

ジーク　「明るい!!」
「ではこれで失礼します」
グラム　「明るいからこれで全員安心だね」
タイム　「そうね・・・」
ジーク　「どうしたー？」
タイム　「何が？」

ジーク　「この町来た時グラムがこの町について聞いたじゃん？」
タイム　「うん。」
ジーク　「何で黙ってたの？」
タイム　「それは・・・」
（タッタッタ・・・）
ジーク　「・・・？」
タイム　「ジークは隠れてた方が・・・」
ジーク　「（サッ・・・）」
（バタン）
「お邪魔しまーす」
入って来たのは私にも分かったあの服装。過去に見かけたあの〝青警〟の服である、その服の者は何かを張り去って行った
タイム　「もういいよ」
ジーク　「何を張ったんだ？」
タイム　「・・・手配書？しかも私とジークのを・・・」
ジーク　「何か悪い事したのかー？」
タイム　「・・・いえ、何もしてない」

ジーク　「してないなら剥がすかー」
　　するとまたドアが開く
ジーク　「あっ・・・」
役員Ａ　「今はジークじゃなくて貴方に用があります」
タイム　「・・・私？」
役員Ａ　「はい」
タイム　「・・・」
私は無言で逃げようとしたが捕まって塔の所に閉じ込められた、どうやら3日後に迎えが来るとの事、私は何かを察した
　　一方　とある船
「・・・なんか嫌な感じがする、アドラ君、この島に止めてくれないかい？」
アドラ　「すぐ戻るのか？」
「・・・1日だけとめてくれないかい？」
アドラ　「分かったよ。」
「(妹君・・・今助けるからね)」
　　降りる謎の青年
「塔・・・か・・・(窓にナイフを投げる)」

「（パリーン!!）」
タイム　「・・・!!!」
「大丈夫かい？妹君」
タイム　「・・・ルーサー!?何で貴方が!?!?」
ルーサー　「話はあとだよ」
続く

暗闇と仲間

暗闇に潜まれた青警の人達、それを討伐した私の義理の兄。
私自身も彼自身もとても大事な兄だった

クロトヘル

ジーク　「どこだー?」
グラム　「探してこようか?」
ジーク　「俺探しに行って来るよ」

（ドンッ）

「おっとすまないね、・・・君はジーク君かい?」
ジーク　「あー!!何でいるんだ!?」
「妹君を助けに船長に頼んださ。」
グラム　「知り合いですか?」
ジーク　「俺の〝義理の兄〟だよ」
「妹君忘れないでくれたまえ、ジーク君」
グラム　「僕の姫様担いで・・・（スッ）誰ですか?」

「・・・君は・・・」
グラム「はい、〝ステラ・S・グラム〟です」
「妹君と同じかい、まあ君たちと戦う気はないよ。僕は〝スター・S・ルーサー〟、ジーク君と妹君の義理の兄さ」
グラム「何で義理の兄が姫様を?」
ルーサー「青警に妹君が捕えられてねそれを助けたのさ」
ゆっくり下ろしそして
ジーク「起きろタイムー飯!」
ルーサー「・・・全くジーク君は・・・今日は僕が作るよ」
しばらくし・・・
ルーサー「できたよジーク君達」
ジーク「うまそー!」
グラム「これが義理のお兄さんの料理ですか・・・、起きてください姫様」
タイム「・・・ん・・・」
ルーサー「起きたかい?妹君、ほら君の」
タイム「ありがとう・・・」
彼女は起きて回り見渡しその場を離れていった

ジーク　「あっ・・・」
ルーサー　「ジーク君・・・妹君の事は気にしないでくれたまえ、しっかり食べるよ」
クロトヘルのどこか
タイム　「・・・誰も見てないね・・・（キョロキョロ）」
ゆっくり仮面を外しそばに置く
タイム　「（ｍｇｍｇ・・・）」
（コソッ）ジーク　「あんな所で食べてる・・・（小声）」
（コソッ）ルーサー　「ジーク君・・・一体どうしたんだい？、妹君の尾行して（小声）」
ジーク　「素顔みたいんだよ！（小声）」
ルーサー　「妹君の素顔は見れないと思うよジーク君（小声）」
ジーク　「なんでだよ!!」
ルーサー　「ジーク君！大きいよ！妹君にばれたらどうするんだい!!（小声）」
タイム　「誰!?・・・って・・・（スチャッ）ジークとルーサーじゃない」
ジーク　「あ・・・バレた」
ルーサー　「そもそもバレたのは君のせいじゃないかい？ジーク君」
ジーク　「僕のせい!?」
タイム　「せっかく会えたね義兄妹が」

ルーサー「僕はそろそろ呼ばれる、だから僕達の証は「星」さ」
ジーク「食べ終えたか？」
タイム「食べ終えたよ、」
船員Ａ「行きますよー！ルーサー」
ルーサー「あぁ、分かったよ。ジーク君、妹君、僕は君のメンバーを傷付けないから君は僕を倒さないでくれたまえ。」
タイム「えぇ」
続く

機械と船

いろいろと世界を見てきた。宝を盗り次の町へと向かう

ソレトグリス

機械の音が響くその街は色んなものを作っていた。

あるときは部品、またある時は機具。

ジーク「すっげー！」

グラム「こんなに多い機械動かしているんだ。」

タイム「ここのログは5日でたまるみたいね。さて探すか仮面を」

ジーク「俺らはどうしようかなー」

グラム「何かを集めるとか？」

ソレトグリス　工房

タイム「すいませーん・・・」

店主「おや・・・君は・・・3代目の主ではないか。」

タイム「仮面ってまだ余ってる？」

店主「・・・それが・・・仮面集めてる者がいて・・・」

タイム「それ・・・どういう事？」
店主「センチネルタウンで仮面を集めてる海賊がいてあと1つが3代目の主の仮面それだけだ。」
「(コンコン)」
店主「何か来るみたいだ、隠れてろ」
「ここにいるか？」
店主「来てないぞ、末裔は未だ来てないといえばいいか」
タイム「・・・」
「そこに隠れてるだろ？末裔よ」
「・・・(バッ)」
「これは・・・」
タイム「愚者・・・要するにすべての始まり愚者の開幕（フール・プロローグ）」
(ドオォオン)
「っ!?・・・お前は・・・」
タイム「全く・・・その愚者の暗示を回避するとはな？」
すると
(ザシュッ)

タイム　「・・・へ・・・？」
「末裔、少しお前は寝てろ」
タイム　「・・・そ・・・ん・・・な・・・（ばたっ）」
「おい、どうだ？カメノ？」
カメノ　「よいしょっと・・・大丈夫だよカメニ、僕の毒で気を失ってる」
カメニ　「その毒は制限時間あるもんな！」
カメノ　「その制限時間内にこの子の仲間が連れ戻すかもなw」
カメニ　「そうそう、で行くかセンチネルタウンにな」
カメノ　「野郎ども！センチネルタウンに行くぞー」
『おー!!』

・・・

ジーク　「おーいいるかー？」
店主　「あ・・・あなたは？」
ジーク　「俺はジーク、タイムを探してたんだ」
店主　「タイム？それなら2人に連れていかれたよ」
全員　「なっ!?」
店主　「1人が毒でさらわれていった」

「急げ、その毒は制限時間ついてる」
グラム　「貴方は？」
「俺はスローク、医者だ」
ジーク　「なあ教えてくれよ！あの毒は何だ！」
スローク　「あの毒は仮面海賊団のカメノの技だその毒に刺されると制限時間内に治療しないと毒に蝕まれ死にいたる」
ジーク　「聞いても・・・いい？その制限時間は？」
スローク　「・・・1日だ、明日そいつの毒治さないと毒に蝕まれ死ぬ」
ジーク　「そのボスはどこだ!!」
店主　「確かセンチネルタウンに行くって」
ジーク　「行こう!!」
スローク　「俺も行く!!」

続く

登場人物（現状）

1話からの登場人物

第1話　ステラの過去から

名「ステラ・S・タイム」

説明　ステラ家の3代目、家計は海賊王と同行経験有

顔に「S」の証を頬に書かれてるため仮面で顔を隠す事が多々ある

亡き父と母から近距離、遠距離と航海士の勉強しのちにジーク海賊団の航海士兼料理人になる　能力はシャドウと偽っている（本当はモデン）

（書かれていたが元キャラ）

ナミ　航海士

サンジ　料理人＋α

ロビン　政府（海軍）に狙われてるため

サボ　盃兄弟　（兄妹）

名「チャクラ」

説明　元六戒所属軍隊に所属してた、更に元軍師のゼルスの左腕をとったピュート系

の能力者、今は大将となっている

（元キャラ）

黄猿（ボルサリーノ）　能力とポジは同じ

名　「クアッド」

説明　軍隊に入ってわずか五か月で中将に昇格、ピュート系能力者、今は大将の1人

エンゴクとは同期

（元キャラ）

青雉（クザン）　これも同じ

二話　「コート家とステラ家」

名　「コート・D・ジーク」

説明　のちのジーク海賊団船長、世界王を目指すノーマリア育ちの少年。

妹の事は仲間の中で大切な人物

（元キャラ）

モンキー・D・ルフィ

名　「スター・S・ルーサー」

説明　「コート」、「ステラ」家の愛でている「スター家」

彼のモットーは「コート家、ステラ家に手を出さない」

「ジーク海賊団に手を出さない」
そしてとある海賊団の副船長でもある
（元キャラ）
ポートガス・Ｄ・エース
元キャラなし
名　「グラム」
説明　３代目ステラの従者愛用の武器を用いて侵入者を倒している
名　「エクスト・Ｆ・ゼロ」
説明　通称「ゼロ」、とある王国の王様だが、現状その王国はなく移動しステラ家の騎士となっている
３話　世界王の生まれ地
名　「コート・Ｄ・クロイル」
説明　ジークの親父、「ステラ家」、「スター家」の面倒見ていたためかステラ家に信用ある、政府の中将である
（元キャラ）
モンキー・Ｄ・ガープ
４話　国と上の者

名　「ヒズク」
説明　五制覇の1人、異名は「白虎のヒズク」
名　「レパード」
説明　五制覇の1人、異名は「朱雀のレパード」。実は誰かに恋してる
名　「アドラ」
説明　五制覇の1人、異名は「青龍のアドラ」、その海賊団船長でありスター・S・ルーサーを仲間に引き入れた1人
（元キャラ）
エドワード・ニューゲート（白ひげ）　※勝手に元キャラ想像
名　「クタート」
説明　五制覇の1人、異名は「玄武のクタート」
名　「シエン」
説明　五制覇の1人、異名は「天狐のシエン」主に妖力を使う、覇気ではないが妖力で未来を見通せる

～最新話で登場する人物～

名　「スローク」
説明　移動しながら旅をする医者、能力では炎と氷の力を使う

元キャラ

トニー・トニー・チョッパー

一人の毒と2人の目的

～???～

カメニ　「どうだ？こいつのタイムリミットは？」
カメノ　「あと２３時間だ」
カメニ　「２３時間？ならこいつ倒せばいいだろ？」
（キンッ）
「ま・・・て・・・まだ・・・終わってない・・・」
カメニ　「ほう、まだ生きる力残ってたか・・・」
カメノ　「でも動かない方が身のためだ女」
「・・・っ!?（ぱたっ）」
カメノ　「言わんこっちゃない・・・」
カメニ　「おい、タイムリミットは？」
カメノ　「１３時間だ（にたぁ）」
カメニ　「ククク・・・この時間耐えれば俺らの目的は叶う・・・」

～センチネルタウン～

ジーク　「おいスローク！どこにタイムがいるんだ!!」
スローク　「あの奥に城あるだろ？、そこにいる」
グラム　「何で走ってるの？」
スローク　「聞いてなかったのか!!タイムにタイムリミットがあるんだ!!」
敵Ａ　「まｔ・・・」
スローク／ジーク　「邪魔だ!!」

～城　奥～

カメノ　「ん？」

（バンッ）

カメニ　「ん??」
ジーク　「返しにきたぞ!!」
タイム　「み・・・ん・・・な・・・」
スローク　「お前・・・どうしたんだ？」
カメノ　「せっかく僕達の目的が・・・」
カメニ　「でも・・・こいつらを追い払えれば目的こなせる」
グラム　「目的？」
カメノ　「僕達の目的は全仮面を集めることだ。」

カメニ　「それであと1つがこの女の仮面だ」
スローク　「俺はこの女を助ける、お前らはこの2人頼む」
ジーク　「おう」
グラム　「分かった」

～しばらくし・・・～

スローク　「解毒したぞ」
ジーク　「お前・・・医者か？」
スローク　「あぁ、医者だ」
ジーク　「なら仲間にならないか？」
スローク　「断る・・・と言いたいがお前はどこに向かうんだ？」
ジーク　「オールジークを目指してるんだ」
スローク　「世界王を目指してるのか？」
ジーク　「おう、だけど・・・大丈夫なのか？」
スローク　「1日寝てれば大丈夫だ」
ジーク　「おう・・・」
スローク　「こいつが心配なのか？」
ジーク　「・・・俺の義理の妹なんだ・・・」

スローク　「〝義理〟？」
ジーク　「あぁ・・・俺にはこいつの他兄がいるんだ・・・」
スローク　「兄？」
ジーク　「兄はアドラ？の所にいるんだ」
スローク　「アドラ!?」
ジーク　「知ってるのか!?」
スローク　「あぁ、だがアドラに君のお兄さんいるんだね」
ジーク　「うんっ！とても優しいお兄ちゃんなんだ！」
スローク　「良い兄妹だな。俺も良ければ行っても良いか？」
ジーク　「うんっ！大歓迎だよ!!」

～1日後～

タイム　「ん・・・？」
ジーク　「起きたっ！大丈夫??」
タイム　「うん」
スローク　「起きたか、女」
タイム　「この人は？」
ジーク　「医者だ」

続く

小さな島

～とある島～

～ジーク号　中～

ジーク　「休憩だ。」
スローク　「次の町はどこだ？タイム」
タイム　「えーっと・・・次は・・・キューセンバッハだね」
グラム　「キューセンバッハ？」
タイム　「どこなのかも分かんないの」
スローク　「キューセンバッハ、そこは「龍の国」と言われてる」
ジーク　「龍!?そこに行ったら何かあるのか!?!?」
スローク　「ただの国だ・・・龍がいるという事だ、しかし・・・奇妙な噂聞いたんだ」
タイム　「奇妙な噂？」
スローク　「あぁ、そこの龍の国何者か分かんないが誰かいるんだ」
ジーク　「海賊じゃないのか？」
スローク　「海賊じゃない何かだ」

ジーク　「・・・ふーん」

～屋根の上～

タイム　「・・・(星を眺めてる)」

ジーク　「どうしたんだ？」

タイム　「・・・ジーク・・・星を眺めてたの」

ジーク　「・・・何か持ってたのか？」

タイム　「私だけの特別な力、私はジークの仲間になってよかったよ」

ジーク　「とにかく用済んだら戻ってこい！」

タイム　「ええ」

～陸地～

タイム　「結果が〝ジークの海賊団が世界王になる〟とはね・・・」

「何してるんだぁ？女??」

タイム　「貴方は？」

「自己紹介が遅れちまったなぁ、俺は「クローズ・D・バラエト」と言うもんだ」

タイム　「バラエト？貴方は私に何用なの？」

バラエト　「女、お前は1人で旅してるのかぁ？」

タイム　「ううん、あの船に乗って旅をしてるの」

バラエト　「じゃあお前とは敵同士って事だなぁ。」
タイム　「敵・・・貴方は何者なの!?」
バラエト　「俺らは休憩中だ、俺は散歩してたら偶然女を見かけたんだ」
タイム　「・・・なるほど・・・」
船員A　「バラエトー次行こうぜ?」
バラエト　「そうだなぁ、また会おうな女」
船員とバラエトは別方角に進んでいった
タイム　「さて、私も戻りましょ・・・」

～ジーク号　中～

タイム　「ただいま」
ジーク　「お帰り」
スローク　「なんかやけに話長かったな」
タイム　「そう?ただバラエトと話しただけなのに・・・」
スローク　「バラエト?確か別の海賊団の船長だな・・・」
タイム　「その人も休憩中で散歩してたんだ」

～一方別の海賊団は・・・～

船員A　「良い人見つけました?」

バラエト　「あの女だ・・・」
船員B　「あの・・・仮面付けてた女ですか?」
バラエト　「そうだ・・・あの〝仮面のタイム〟って奴だ」
船員A　「でも何故仮面のタイム連れ攫わないんですか?」
バラエト　「俺はあの女はまだまだ成長してはいない、成長いや・・・オールジークに行ったら攫おうと計画している」
船員B　「オールジークに行ったらあのタイムっていう奴攫うんですね!」
バラエト　「あぁ、オールジーク行くまで待ってろよ?女ぁ・・・」
この時ジーク達は気が付かなかった
バラエトに真の目的がある事を・・・

海と大きな穴

～海の上～

ジーク　「なんだこの穴・・・？」
タイム　「穴があるの？ごめん見えないっ」
スローク　「気を・・・」
全員　「うわぁぁぁぁ!!」

～地底国　デスマ～

ジーク　「ここはどこだ？」
タイム　「確か穴みたいのに入って・・・」
「あれ？人間がいる!?」
スローク　「お前は？」
「そういう君たちこそ！」
グラム　「僕達は海賊なんだけど、ここどこか分かる？」
「ここは地底国　デスマだよ」
ジーク　「僕達ここから出たいんだけどダメかな？」

「此処はねあの方が国王なんだけどここから出ちゃダメなの」
スローク「それでも俺らはここから出たいんだ」
「なら仕方ないね（パチン）」
（ザッ）
「どうしても出たいなら倒して見て！」
ジーク「・・・はあっ!!」
全員「・・・っ!?」
ジーク（？）「はあっ!!」
（どさっ）
「何・・・この人？」
スローク「ジーク・・・お前・・・モデンか？」
ジーク「モデン??」
スローク「モデン知らないのか??」
グラム「僕も知らない・・・」
（がぶっ）
ジーク「いってぇ!!」
（ぴょんっ）

タイム　「うわっ!?」
ジーク　「なんだろうこの狐」
（くいくい・・・）
タイム　「呼んでるみたいだし行って来るね」
スローク　「おう」
・・・
「やあ3代目ステラ」
タイム　「あなたは??」
「自己紹介がまだだったね」
（ドロン）
「私は五世覇の一人〝天狐のシエン〟って言うの」
タイム　「シエン??」
シエン　「ええ、貴方の家計の事気になっちゃって少し先を見させてもらったわ」
タイム　「えっ!?」
シエン　「そしたら結果が可笑しいのよ・・・」
タイム　「結果??」
シエン　「ええ、結果は世界王になれるけど・・・その先闇で覆われて・・・ここは私

に任せなさい」

（ドロン）

ジーク　「おーい！行くぞー!!」

タイム　「待ってー!!」

～お城～

「もう来ないのか？」

「そうみたいです」

（とんっ）

「狐？」

「どうしたんだろう・・・この狐」

（ドロン）

「あらあら・・・どうしたのかしら??」

「お前は・・・世界王に近い女!!何故！」

シエン　「何故？ひどい言われようね私は末裔に用があって来たのよ。だけど、もうあなたは未来の世界王に近い人たちを捕えて未来失くすのはやめなさいっ」

（どんっ）

シエン　「世界王に近い青年、そして末裔・・・いい旅をしなさい・・・」

～地上～

ジーク　「あの狐・・・誰か分かる人いる？」
タイム　「確か・・・天狐って言ってた・・・」
スローク　「天狐、そう言ってたか？」
タイム　「うん、そう言ってた」
グラム　「天狐・・・一体何者なんだろう・・・」